

## テーマ：「阪神・淡路大震災で学んだこと」

稲村 尼崎市長の稲村です。

今から20年前の1995年1月17日午前5時46分、淡路島北部を震源地とする、マグニチュード7.3の直下型地震が発生しました。

後に「阪神・淡路大震災」と呼ばれるこの大地震では、尼崎市においても49人の尊い命が失われ、62,000世帯以上の家屋が被害を受けました。

改めて、犠牲となられた方々のご冥福をお祈りいたしますとともに、ご遺族の皆さま方に心よりお悔やみを申し上げます。

あれから20年。

たゆまぬ努力により復興を遂げた私たちは、あの震災で何を学び、どう変わっていったのか。

20年目という大きな節目を迎えるにあたり、今一度、震災を振り返り、検証し、そして、未来へつないでいきたいと思えます。

さて、本日は、阪神・淡路大震災をきっかけに、職場の防災対策を強化され、積極的に取り組みを進める市内企業の方を、ゲストにお迎えしております。

株式会社神崎高級工機製作所の取締役総務部長、仲神利春さんです。こんにちは。

仲神 こんにちは。

株式会社神崎高級工機製作所の仲神です。よろしくお願いいたします。

稲村 よろしくお願ひいたします。

お忙しいところをご出演いただき、ほんとにありがとうございます。

本日は仲神さんの会社の防災対策などについて、色々お話を伺いしていきたいと思えます。

ですがその前に、まず、仲神さんから「株式会社神崎高級工機製作所」がどんな会社か、ちょっとご紹介いただけますか？

仲神 はい。当社は、主に歯車や油圧機器、トランスミッション、工作機械などを製造する会社で現在、従業員は約630名です。

ヤンマーのグループ会社で、猪名寺の本社のほか、北米やインドネシアに工場があります。会社設立は1947年で、今年で創業68年目を迎えます。

稲村 68年ですか！1947年といえば戦後まもなくですよ。もう本当に長い間、尼崎市でがんばってくださっているということで、大変嬉しいです。

また、ヤンマー株式会社さんには、尼崎市とドイツのアウクスブルク市との姉妹都市の提携

に、ほんとに多大なるご尽力をいただきました。現在も、姉妹都市交流には、何かとお世話になっております。

仲神 残念ながら当社は、アウクスブルク市との交流には携っておりませんが、地域貢献活動として、毎年春に庭園を開放し、地域の皆さんに桜の花見をお楽しみいただいております。

稲村 そうなんですよ、ありがとうございます。

実は、尼崎市の企業さん、結構、社員向けのお花見なんかを地域にも開放して「どうぞご参加ください」って取り組んでくださっている企業が、いくつかありまして。地域の皆さんからも、とっても好評の声が届いております。ほんとにいつもありがとうございます。

さて、そんな神崎高級工機製作所さんに、震災後の防災対策について、お伺いしていきたいと思えます。

仲神さん、まず、20年前の震災直後、会社や工場はどんな状況だったんですか？

仲神 はい。当社には当時、滋賀県の米原市に伊吹工場というのがありまして、私自身はそこにおりました。

滋賀県でも大きな縦揺れがあり、工場内の製品の落下や機械のズレがあったので、震源地に近い本社はどんな状況だろうと心配になりまして、確認したところ、案の定、機械が転倒するなど、大きな被害が出ておりました。

稲村 そうですか。私も、震災発生当時は奈良市の実家にいたんですけれど、それでも奈良が震源地かと思ったぐらいでした。まさか神戸が、あんなふうな大きな被害になっていると思わなくて、ニュースを見てほんとに驚きました。

それで尼崎の本社なんですけれども、その後いかがでしたでしょうか？

仲神 製品や備品の落下や、機械の転倒、損傷が多数見られ、多くの不良品が発生しました。また生産ラインも殆ど動かなくなり、その被害額は数億円にものぼりました。

ただ、グループ会社が一丸となって工場の復旧に取り組んだため、1週間後には操業を再開することができました。

ところで、稲村市長は、当時はまだ学生だったとお聞きしておりますが。

稲村 そうなんです。

私、神戸の大学に通っておりまして、大学が長期の休みになったんですね、この震災の影響で。それでリュックサックに救援物資を詰め込んで、神戸にまず行ってみようということで。そのあと、小学校の避難所で、泊り込みでボランティア活動をさせていただいたんです。

避難所では、被災者の皆さんと一緒に、毎日当番を決めたり、避難所の使い方のルールを決めたり。そういういろんなことに携らせていただいたんですけれども、やっぱりみんなで決めたことは、みんなきちんと守るんだなあということが、すごく印象に残っています。そこには、ほんとに小さな「自治」があったというふうに思っています。

その後、被災者の皆さんの住宅の再建がなかなか進まない。これはちょっとボランティアでも、なかなか前へ進めていけないということで、「被災者の支援や政策」っていうことに興

味を持ったのがきっかけで、政治の道に縁ができたんですけれども、この震災が発生した1995年、「ボランティア元年」と言われるようになりましたけれども、私にとってもほんとにこの「阪神・淡路大震災」が、まさに「自治の原点」を学んだ、今につながる「元年」だったなというふうに思います。

さて、早くに操業再開された尼崎の工場なんですけれども、その後の防災対策ということでは、どのようなことを進められたんでしょうか？

仲神 はい。具体的な対策として、まず、工場内の地震対策を強化しました。機械をアンカーボルトで固定したり、棚やキャビネットの転倒防止、棚に置いてある治具・工具の落下防止を徹底させました。

社内には水と食料、それから防災用品を備蓄し、社員の安否確認のための連絡体制も整えました。

また、尼崎市消防局のOB職員を「防災担当顧問」にお招きし、社内の防災教育や、防災マニュアルの作成なども進めました。

稲村 なるほど。まさにソフト面、ハード面、両方で、いろんな対策を進められた、ということですよ。

仲神 はい。そして毎年春と秋には、社内の防災訓練を行っています。

特に秋の訓練は、全社あげての大規模なもので、警察や消防署の参加のもと、はしご車による避難訓練なども実施いたします。

当社は普段から消防署とのコミュニケーションを密にとっており、所轄の北消防署から講師をお招きしての救命講習や訓練も実施しております。昨年7月には、私自身も実際にできるかどうか少し不安がありましたので、AEDの使い方や、心肺蘇生マッサージの講習を受けました。

稲村 そうですね。素晴らしい取り組みですね。

私も、AEDの使い方、一回だけ講習受けたんですけど、やはり一回やったことあるのとなしいのでは、全然違いますよね。

仲神 違いますね。

稲村 ぜひまた、多くの方に受講していただきたいなと思います。市の方にお問い合わせいただいたら、消防署の方ですぐに受け付けいたしますので、よろしくをお願いします。

また、神崎高級工機製作所さんは防災協会の役員もしていただいています、さらには、尼崎市の「津波等一時避難所」にもご登録をいただいております。地域の防災対策に、ほんとお力添えをいただいています、ありがたく思っております。

そのようななかで、仲神さんが特に感じていらっしゃることは、ありますか？

仲神 はい。阪神大震災から20年が経過しましたが、社内でも、それを実体験して復旧・復興に苦労した人が、もうほとんどリタイアしてしまっております。

地域との連携も、少し希薄になりかけていることを非常に心配しておりましたが、南海トラフ地震が30年以内に70%の確率でやってくるという報道は、私たち企業にとっても、大変な衝撃でした。あれで「防災意識」はまた再燃していると思います。

企業には、出勤時であればたくさんの人、すなわち「助け手」がありますし、フォークリフトをはじめ、災害で役立つ機器類がたくさんありますので、地域と連携した防災体制が作れると思います。

稲村 そんなふうにおっしゃっていただくと、本当に心強いです。特に、震災を経験していない、知らない人が増えているというのは、市民の皆さんの間でもそうですし、市役所の職員もそんなですね。ですので、改めてそういった経験を引き継ぎながら、今後の防災対策にもしっかりと、気持ち新たに取り組んでいかないといけないなと痛感しています。

仲神 そして、防災に関し「知っている」ということと「できる」ということには、非常に大きな隔たりがあるということも実感しております。

消防士の方でも、「いざという時、訓練していないことはできない」と言われておりましたので、防災訓練を継続して行うことは非常に重要だと思います。

昨年11月に実施しました当社の防災訓練も、以前は初期消火と避難が中心でしたが、大地震の被害状況を想定して、初期対応行動をする総合的な防災訓練へとシフトして実施しました。

稲村 とても重要なことですね。

仲神 また、先ごろも配布された「尼崎市防災ブック」を、関係者一同、熟読しております。これに倣って、当社の防災マニュアルも見直していこうと思います。文字情報だけでなく、ビジュアルにわかりやすくして、有事に使えるマニュアルにしていくことが大事だと思っております。

稲村 さっそく「防災ブック」をご活用いただいているということで、ありがとうございます。嬉しいです。

このたび全戸配布しました「尼崎市防災ブック」には、津波や地震だけでなく、高潮、河川の氾濫などの被害想定と、その対策、備えについての、まさに総合的な情報が、一冊にまとめられています。

神崎高級工機製作所さんには、今後もぜひ、この「防災ブック」もご活用いただき、消防署との訓練を続けていただきますとともに、先ほどもね、心強いお話しいただきましたけれども、地域の防災対策にもご協力を賜りたいと思います。

仲神さん、今日は貴重なお話を、ほんとにありがとうございました。

仲神 どうもありがとうございました。

稲村 今後ともよろしく願い申し上げます。

仲神さんがおっしゃったように、防災対策については、「知っている」だけではなく、「できる」ということが、非常に大切です。

皆さんが、普段から災害の情報収集ができ、いざという時に避難ができ、そして、非常時にはお互いに助け合うことができるよう、尼崎市では今後も、市内企業の皆さんとも連携し、様々な防災対策を進めていきます。

それでは、本日はこの辺でお別れです。次回の放送もお楽しみに。

以 上